

意識を喚起し



進んで行動を

私達の使命は…

…私達のクラブ

…地域社会

そしてあまねく広く世界において

2000～2001年度 国際ロータリーのテーマ

第2560地区  
ガバナー——吉田 昭 平  
会 長——斎藤 弘 文  
会長エレクト——五十嵐 昭 一  
副 会 長——松谷 昊 吉  
幹 事——丸山 行 彦  
副 幹 事——清水 良 一  
S A A——荻根 沢 隆 雄  
副 S A A——中村 和 彦

例 会 日——毎週水曜日 12:30～  
例会場及び——三条市旭町2-5-10  
事 務 局——三条信用金庫本店内  
例 会 場——TEL 35-3311  
事 務 局——TEL 35-3477  
FAX 32-7095

本日出席会員数	71名中 47名
先々週出席率	91.30%

## ゲ ス ト

つわぶき会 副会長 近藤信江様

### 先週のメイクアップ

9/18 三条南へ

五十嵐総一さん

9/18 甲府へ

小越憲泰さん

9/19 三条北へ

外山一郎さん、福井良英さん、  
山田富義さん、樺山 仁さん、  
古澤富雄さん、高畑 昭さん、  
五十嵐総一さん、渡辺喜彦さん、  
松谷昊吉さん、斎藤 隆さん

9/19 東京西南へ

林 光輝さん



## 会 長 挨 拶

斎藤弘文会長

近藤さんよくいらっしゃいました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

20世紀最後の祭典シドニーオリンピックが15日から開催されまして、毎日テレビに釘付けになっているのではないかと思います。

丁度同じ頃、大相撲が終盤を迎えまして、優勝争いが15日、16日、17日で一番おもしろい時でしたけれども、すっかりオリンピックにとられてしまって、視聴率ががた減りに落ちたというそんなニュースもあった訳でございます。

大相撲も武蔵丸が優勝し、曙も千秋楽で武蔵丸に勝ちました。角番だった雅山もどうにか8勝できて大関に、武双山も10勝を取れば大関にという大事な一番も最後に勝つことが出来て協会としては万々歳の場所ではなかったかなと、そんな気がしております。

残念な事は塩撒きで有名だった水戸泉が引退し

ましたし、一度に2人の奥さんを持つとした欲深い琴錦も引退してしまいました。若干の淋しさを感じております。

今回の大相撲は満員御礼の垂れ幕が1日しか垂れなかったということで先行きを心配している訳でございます。

以前は相撲という国民的な人気がありましてなかなか券がとれない様な状況が続いてきた訳ですが、ここに来て空席が目立つようになって来ました。

考えてみればスター関取がいなくなってしまうというそんな事が大きな原因の一つではないかと思えます。

私はお客様の招待で国技館で行なわれる時、砂かぶりで相撲を見るチャンスがあります。最初、向正面の前から三列目の席でしたが向正面だとテレビに映ってしまうために席を代えてもらいまして、今は西の席で見させてもらっています。せっかくの機会ですので、11時頃国技館に入る様になっています。

3段目から始まりまして幕下、十両と見せてもらう訳ですが最近の相撲で一番感じますことは、五体満足の力士がほとんどいなくなって、どこかにテーピングしたり足袋を履いたり、包帯を巻いたりしております。

栄養が良く太っており相撲取りがダイエットをしなければならぬ時代になってしまったという心配です。

柔道の山下がロサンゼルスオリンピックで金メダルをとった時の光景が思い浮かびます。山下は準決勝、決勝を残す3回戦で足を痛めてしまいまして、準決勝は戦えないのではないかと心配をよそに、準決勝、決勝と勝った訳です。その後のインタビューで自分は何んとしても足を痛めた事を見せたくなかったが痛くて知らないうちにびっこを引いてしまった。まだ自分は修行が足りないと、こんな事を言っておりました事が印象に残っております。

サポーターをしたり包帯をしたりするのは自身の弱点を見せる訳です。そういった力士が本当の意味で相撲道という中に生き残れるかと考える時に大変な不安を感じている一人でございます。

生意気な挨拶になりましたがオリンピックと重なってましたものですから挨拶にさせていただきました。

## 幹事報告

丸山行彦幹事

◎例会変更のお知らせ!

- 三条南RC 10月23日(月)→24日(火)に3クラブ合同例会
- 三条北RC 10月10日(火) 職場例会 於 (株)ビジネスセンター 10月24日(火) 夜例会 3クラブ合同例会
- 見附RC 10月26日(木) 夜例会 於 ホテルつるや

## ニコニコBOX



齋藤弘文さん

20世紀最後のスポーツの祭典シドニーオリンピックが始まりました。日本選手の活躍に心をおどらせております。

丸山行彦さん

つわぶき会、副会長近藤信江様卓話ありがとうございます。

清水良一さん

長嶋・巨人・優勝を祝して? (次回例会欠席のため) ニコニコボックスへ。

五十嵐総一さん

オリンピックのテレビ見て日本選手金獲得。BOXへ。

五十嵐昭一さん

日曜日に男鹿半島北緯40度のすばらしい海岸線を眺めて、行く夏を楽しみました。

川又嘉瑞範さん

シドニーオリンピック毎日楽しくテレビの前に家族と奇声をあげております。

岩井数央さん

久しぶりの出席です。BOXに協力します。

長谷川有美さん

ボランティア活動、つわぶき会近藤様、御苦労様です。卓話ありがとうございます。

五十嵐 力さん

卓話をお引受け頂きました近藤さんに感謝して。

9月20日分 ¥ 11,000  
今年度累計 ¥ 247,000

## 卓話

つわぶき会 副会長 近藤信江様



ボランティア、それは自分の力をためすこと、自分を必要としてくれるところで共に歩むこと。一寸カッコイイ言葉で言うところのこんな事になりましようか。

ひと口にボランティアと言ってもいろいろたくさんの方がありますが、今私が仲間と一緒にさせて頂いているのは、目の不自由な方々、視覚障害者の方々のお手伝いです。

現在視覚障害者の数は、全国で約40万人とも45万人とも言われています。県では約8千人、三条では100名あまりと推定されています。

このうちの約8割が中途失明者だという事です。普通私達晴眼者が情報を取得する方法は8割が目からで、あとの2割が耳で聞く、手足や体でさわる、触れる、臭いをかぐ等です。その8割の部分がご不自由な方々のお役にたてたらと願って生まれたのがつわぶき会です。

点字とか点訳と言うのは、よく耳にされると思いますが、この点訳と私達がやっている音声訳とは2本柱として歩んでいます。

音声訳とは文字を音声にして正しく伝えることです。点字は専門の学校で習得した場合は別として、特に中途失明者にとっては、大変むづかしく音声訳に頼らざるをえない状態だそうです。

三条には、音声訳虹の会と朗読奉仕つわぶき会のふたつで活動していますが、県内各地にたくさんのグループがあり、亀田にある新潟県点字図書館を通して、情報交換や勉強会を行なっています。

私達はおもに三条声の公報、三条新聞、越後ジャーナル、新潟日報等を60分テープに吹き込み、三条身体障害者福祉会の盲人部会に提供させて頂いています。

この提出したテープを盲人部会の係の方がテープにダビングをして、希望者に配布しています。このダビングをするのが又大変なお仕事なのです。そこで、5、6年前位だったでしょうか、こちらのロータリーさんのような会に私達が働きかけて、高速ダビングの機器を部会に贈呈して頂き、本当にありがたく感謝致しております。

ところで皆様は日頃、新聞や小説等を声を出して読むいわゆる音読をなさいますか。学生時代はともかく、いわゆる社会人、大人になってからは

ほとんど黙読だと思えます。

黙読の場合は、私達晴眼者は字を見ているので正しい読み方かどうか、いちいち考える事なく読む。地名人名も自分がわかればいいので確かめる必要なくなんとなく読み終わってしまう。

ところが音声訳は、何よりも先ず正しく正確に伝えることが一番大切な使命です。正しい読み方、アクセント、イントネーション、間のとり方、読む速さ、それらの他に録音機器の正しい使い方等、勉強しなければならない事がたくさんあります。幸いなことに今年9月から半年間、月に1度、元NHK新潟放送局のアナウンサーだった大橋修一先生を講師に招き、基礎から勉強しているところです。

アクセント辞典は当然のこと、漢字、地名人名、古語、外来語の辞典はなくてはならないパートナーです。先程から私は音声訳と言っていますが、一般には朗読という言葉の方が知られていると思います。実は朗読と音声訳とは一寸違います。新聞等は別として、小説や随筆等はどうしても読み手の感情が入ってしまいがち、でもそれは視覚障害者にとっては、じゃまになる。聞いた人がいろいろ想像し、イメージをふくらませるので、感情移入はなるべくない方がよい。だからと言って棒読みでいいのかと言えば決してそうではない。機械ではないあく迄も人が読むのだから、そこに温かみがなければいけない。

今のところ私達会員20名程(実際のテープ製作は13名程)がそれぞれ録音機を1台ずつ持ち、各家庭で録音をしている。犬や鳥の声、車や工事の音等、普通は気にならない音も、録音する時はすべて雑音になってしまう。そんな雑音の宝庫の中でも、いろいろ工夫し勉強してより喜んで頂けるテープ作りにはげんでいます。お陰様で若い方も入会され喜んでいますが、新津や水原等は男性会員もおられる。三条でもぜひ男性に加わって頂きたいと願っています。

それではこのあと、後半15分は朗読をさせて頂きます。

「葉っぱのフレディ」—いのちの旅—  
コレオ・バスカーリア作  
みらい なな 訳

